

ここから広げよう!!各学部の先生からのオススメ本

READING LIST

人文学部 内野広大 先生



西田幾多郎 著
『善の研究』

岩波書店、1979年10月出版
【所在】 図・開架・PB
【請求記号】 121.9/N81

「善とは何か」。本書は、生まれてから死ぬまで影のように回るこの問いに対して、機械的に執行すれば事足りるような正しい答えを示してはくれない。しかし、そうした問いに直面せざるを得なくなり、他ならぬ自分自身の尺度にまで遡ることを余儀なくされる時——それは人権や平和等が痛切に自分の問題となる時でもある——、その長き行路にあって、足元を照らしてくれる一書である。

教育学部 松本昭彦 先生



吉海直人 著
『百人一首の正体』
(角川ソフィア文庫)

KADOKAWA、2016年10月出版
【所在】 図・開架・PB
【請求記号】 911.147/Y89

「小倉百人一首かるた」で有名な『百人一首』であるが、藤原定家が選んだ『百人一首』そのものについては、意外に知られていない。その成立や定家の選歌意識、各歌の見所を解説するコンパクトな一冊である。著者は、百人一首関連のグッズも収集しており、現代に至るまでの模倣作品・関連商品の紹介も楽しい。付録には、『百人一首』と密接な関係を持つ『百人秀歌』独自収載歌を載せる。

医学部 成田正明 先生



成田奈緒子 著
『睡眠時間を削らず、塾にも行かず、現役で国立医学部に合格した私の勉強法』

芽ばえ社、2016年12月出版
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 379.9/N52

あのノーベル生理学・医学賞受賞の山中伸弥先生(著者の同級生)も帯で「本書の勉強法は一生使える勉強法だと思います」と推薦している。「なおちゃんのノートはいまだに大切に保存しています」とも。山中伸弥博士が絶賛する著者のノートは果たしてどんなノートなのか。最後の山中先生の書下ろしコメント文も必見!この生活法は大学生になった今からでも決して遅くない。

工学部 成瀬央 先生



村上泰司 著
『入門光ファイバ通信工学』

コロナ社、2003年12月出版
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 548.8/Mu43

現在の情報化社会、また今後の「モノのインターネット」社会は、光ファイバ通信システムが基礎となっている。本書は、光ファイバ通信技術やシステムについて学部学生に向けて書かれた入門的専門書であり、光ファイバや関連する部品、電気信号からの光信号への変換、また逆の変換のためのレーザや受光器について、構造から原理までわかりやすく記載されている。

生物資源学部 関谷信人 先生



鶴見 和子 著
『南方熊楠:地球志向の比較学』
(講談社学術文庫)

講談社、1981年1月出版
【所在】 図・書庫・松田文庫
【請求記号】 289.1/Mi37

南方熊楠。我國民俗学の祖である柳田国男と並び称されるだけでなく、科学雑誌Natureで歴代最多の論文を発表した人物である。昨今、我国ではグローバル人材の育成が急務の課題と言われる。本書は、明治時代に生まれた熊楠が文理融合的な思考を身に着け、紀伊田辺を拠点にしながらも世界規模で活躍した軌跡を丹念に描く。巨人熊楠の痛快な人生を知り、今日の課題への光明を見出して欲しい。

教養教育機構 和田正法 先生



三橋淳編 著
『虫を食べる人びと』

平凡社、2012年5月出版
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 383.8/Mi63

初めこそ「うわ〜」とうめきながら読むことになるだろうが、虫がいかにか一般的な食べ物なのかを思い知らされる。食糧難が起きたら、キミは虫を食べるか。人類は虫を食べてきたし、今も食べる人がいる。と言ってみたものの、とりあえず私が皆さんにおススメしたいのは虫を食べることではなく、それにも引けを取らない知的雑食性である。普段読まなさそうな本を手にとってはいかがか。

『文化を育むノルウェーの図書館：物語・ことば・知識が踊る空間』

〈マグナスセン 矢部直美、吉田右子、和気尚美 著 (新評論)、2013.5〉

【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 010.23889/Ma29



三重大学地域人材教育開発機構助教 和気尚美 先生

■エスニックマイノリティに対する図書館サービスの研究
—まずは、先生の現在の研究のご紹介をお願いします。
ソーシャル・マイノリティに対する図書館サービスについて研究をしています。特にこれまで、移民や難民、先住民等のエスニック・マイノリティに対する図書館サービスについて研究してきました。

■ノルウェーの図書館の様々なサービスとノルウェーの市民の読書生活
—ご著書『文化を育むノルウェーの図書館』の物語・ことば・知識が踊る空間の紹介をお願いします。
5章の執筆を担当しています。ここでは移民・難民に対する図書館サービスに加え、障害者サービスと先住民に対する図書館サービスについても触れています。この本を執筆する際、ノルウェーの図書館がどんなサービスを提供しているか、のみに焦点を当ててではなく、ノルウェーの出版流通



上はアンマークの移民に対する図書館サービスのブックリストなどの資料。右は、デンマークのコペンハーゲンの市立図書館で配付しているキャラクター「アト」(想像しつる全てがある)のカーンと風船だそうだよ。「Book til alle」と書かれた資料の(丸に点)の文字は、ノルウェーの図書館で提供されている「すべての人のための図書館」のマークだよ。

和気尚美先生 プロフィール
三重大学地域人材教育開発機構助教。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。博士(図書館情報学)。人と人との出会いの場、集いの場としての図書館の機能に関心を寄せ研究に取り組む。主な共著書に『高齢社会になく図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み』(学文社)など。

■大学図書館や、公共図書館を上手に活用しよう!
—三重大学生へメッセージをお願いします。
何かやるうかなと悩んでいるなら、足を動かして、興味のあるフィールドに出てみることをおすすめしたいです。「Alt hvard du kan teake dig(想像しつる全てがある)」というのは、アンマークのコペンハーゲン市立図書館のキャラクター「アト」です。悩んでいることについて、考えうる全てのことを図書館に尋ねてみる事ができます。何かアクションを起こしたい時に、ヒントを求めるときとして、大学図書館や街の公共図書館を活用してもらえたらと思います。

や、市民の読書生活や本との関わり方も含めながら、ノルウェーに住んでいる人の暮らしがどう見えるような形でノルウェーの図書館を論じようかと共著者と共に話し合いました。そのため、序章にノルウェー社会全体の概要があったり、6章で読書事情と出版事情に触れていたりします。5章は便宜上、障害者サービス、移民サービス、先住民サービスと分節して論じていますが、それぞれのサービスが部分的に相互に重なり合っているというのがノルウェーの図書館サービスの特徴です。それを体現しているのが、「すべての人のための図書館」です。「すべての人のための図書館」とは、通常の活字を読むことが困難な人を対象に提供している、分かり易い表現・フォントを用いた図書や、録音図書を意味しています。「すべての人のための図書館」は、障害者サービスとしてだけでなく、全ての利用者に対して提供されています。平易な表現やフォントで記された図書は、読みに困難のある人のみならず、語学学習中の移民や難民、ひいては、あらゆる人にとって分かり易いという考えが根底にあります。図書館サービスにも、ユニバーサルデザインの考え方が浸透しているという所が、ノルウェーの図書館サービスの特徴です。そんな点が少しでも本書を通じて伝われば良いなと思っています。

図書館は大きく提供側・利用側の2つの視点から捉えることができますが、私の研究は、図書館という場の意味を、図書館の管理側やサービス提供者に限定した視点から制度論や経営論の中に見ていくのではなく、また利用者側からの視点に限定するのではなく、双方の力学が作用する相互作用の関係をのぞいていこうとするものです。加えて、移民政策や文化政策、移民や難民の出身社会との関係等も見ながら研究を進めています。写真の資料は、移民に対する図書館サービスに関する資料です。私が主な研究対象にしているデンマーク、スウェーデン、ノルウェーの3か国は、移民・難民に対する図書館サービス専門のナショナルセンターを国レベルで設置しています。ナショナルセンターが、図書館の図書館になっていて、地域レベルの公共図書館で移民・難民に奉仕する支援をしています。多言語資料についてもナショナルセンターが持っており、地域の図書館に貸出しています。